

評価員会からのコメント



古池委員 ▶

どの団体も、地域の課題を自ら引き受け、解決に向けた工夫をしながら活動をされている。まちづくりにとって非常に良いことだと感じた。

▶ 植田東学区連絡協議会

交通に伴う課題の場合は意識啓発という対策がよくあるが、ハードまで踏み込んで取り組まれている。しっかりデータによる裏付けをとっていて、感心している。社会実験の際にポールやカラーコーンではなく、フラワーポットなどのまちに潤いを与えられるようなもので実施されるともっと良いと感じた。

▶ かねでら monzen 亭

よくある二次元のワークショップを三次元で実施し、共感を広げるように工夫されている。旧東海道沿線界隈などの特色や笠寺らしさをもっと考える機会になると良い。ジオラマによって現在と未来を比較しようとしているが、過去も含めて考えていけるとより良いものになるのではないだろうか。

▶ 荒子の里協議会

長浜市の木之本・雨の森地区への視察をされたということで、古く形成されたまちを見られたことは荒子でも参考にできる部分が大いにあると思う。

三島委員 ▶

空間・土地・建物に関することを地域が主体となって取り組むということについて、様々なテーマがあり、発表を聞いてこちらが勉強させてもらったと思っている。その中で『人育て』と『発信』というキーワードが重要だと感じた。

▶ あつた宮宿会

「まちづくりは人育て」と発言されていたが、非常に大切だと思う。次の世代が育つためのプロセスをつくることは、すべての団体に共通して大切なこと。子どもを巻き込んだ内容になっていた点がよかったが、次の段階では、子どもたちが伝え手になっていくような展開があるとさらに素晴らしいと思う。

▶ 荒子の里協議会

かわら版の発行を通じて地元の理解が浸透しつつある。梅の活動についても、自分たちから生み出して地域の他団体に渡していったということだった。地域との連携づくりは他団体にも参考になる。より若い人に関わってもらうためには、若い人に親しみのある SNS などのメディア活用を工夫していくとよいと思う。

▶那古野下町衆

今回の社会実験はイベントに合わせて実施されている。日常時の話もあると思うので、もう少し精査されると良い。ペットの糞尿について、ガーデンバリアなどのハード対策に頼らなくても、人が集まることによる被害軽減の可能性が見えたのは、社会実験からの新たな発見だと思う。

小松委員 ▶

地域まちづくりを進めていくにあたって、『地域の課題を明らかにし、それぞれの課題がどのようにつながっているかを明らかにして、地域で共有すること』、『活動を通じて、構想やビジョン、計画といったものを作り上げていく手立てがあるかどうか』という2点が大切だと思っている。

▶矢田地域まちづくり推進協議会

団体としてはスタートラインに立っているところであるが、防災的な視点はスタート時のテーマには良いと思う。それを出発点にして、地域にはどんな課題があるか、そしてそれがどのように関係し合っているかを今一度議論し、共有してほしい。また、活動が団体の目標に向かってどれだけの効果があったかの検証も行ってもらいたい。それが次につながっていく。

▶植田東学区連絡協議会・那古野下町衆

構想づくりから実践へのステップを進んできているということが、団体のみなさんで共有されていると感じられた。

▶あつた宮宿会

以前から色々な活動がされている地域で、それらをまとめていけるような新たなプラットフォームになっていけると良い。ビジョンから入るまちづくりではなく、活動をしながらビジョンを組み上げていくまちづくりの進展を期待したい。また、このような場で発表される際、さまざまな地域関係者が自らの言葉で話すことは、地域自らが発信していくという意味や人材育成の点で大切なことだと思っている。

